

◆「第2回オペラリレーコンサート」の実施計画

「第2回オペラリレーコンサート」の計画が進められています。私たち「ひたちオペラ合唱団」の活動にとっても重要なイベントです。

その概要が明らかになってきました。今後、詳細が詰められてゆきますが、当合唱団としても最大限の協力と実現への努力をし、充実したステージにしたいと思えます。

「第2回オペラリレーコンサート（仮）」実施概要(案)

1. 趣 旨： オペラ事業にかかわる多くの市民及び新たな参加者による交流を生み出し、市民オペラの更なる活性化を目指す。
2. 期 日： 2024年12月15日(日) 14：00開演(予定)
3. 会 場： 日立シビックセンター 音楽ホール
4. 入場料： 一般：1,500円 25歳以下：500円
5. 出演者： ・子どもオペラ学校、 ・子どもオペラ学校卒業生、 ・ひたちオペラ合唱団、
・アンサンブル(H響有志)、 ・ソリスト(Sop, M.Sop, Ten, Bar)、
・劇団コミュニケーション、 ・バレエ
6. 内 容： (1) 指揮・演出： 未定
(2) 第1部：各出場団体が単独演奏
(舞踏会にまつわる曲、クリスマス時期にふさわしい曲など検討中)
(3) 第2部：オペレッタ《こうもり》・・・出場団体が合同演奏
7. 企画運営： 企画・運営については、「ひたち市民オペラによるまちづくりの会」の会員を中心とし、企画に賛同する地元の有志を集めて行う。
当団からは、半田 智子(副幹事長)、大川 明日香(Sop、子どもオペラ学校卒業生代表)の2名が参加。
8. 今後のスケジュール：
 - (1) 概要の決定 6月中旬
 - (2) 参加団体及びプログラム決定 7月上旬 当団の演奏曲目を何にするか？
皆様のご希望曲を運営委員会にお寄せください。
 - (3) 市報掲載 / チケット発売 9月20日号 / 9月下旬
 - (4) 舞台進行最終確認 11月下旬
 - (5) G P 12月14日(土)

◆「大久保交流センター 一斉清掃」のお知らせ

6月1日(土)、ひたちオペラ合唱団が通常練習に利用させて頂いている大久保交流センターの一斉清掃が行われました。

当団からは大川 明日香さん(Sop)が代表として参加してくださいました。ありがとうございました。

◆ お知らせ

◇【入団】鴨志田 恵美(かもしだ めぐみ)さん (Sop) 5/12付け入団されました。高萩市在住。
皆さん、よろしくお願いいたします。

今後のスケジュール

月 日	時 間	会 場	指揮	ピアノ	内 容
6/ 2 (日)	17:00～19:30	大久保交流センター 4F会議室	—	阿部	自主練習
6/23 (日)	17:00～19:30	大久保交流センター 4F会議室	杉原	湯本	
6/30 (日)	17:00～19:30	大久保交流センター 4F会議室	山館	阿部	
7/14 (日)	17:00～19:30	大久保交流センター 4F会議室	山館	湯本	
7/21 (日)	17:00～19:30	大久保交流センター 4F会議室	杉原	湯本	
7/28 (日)	17:00～19:30	大久保交流センター 4F会議室	山館	阿部	

2つのオペラフォーラム

世界のオペラ 日本のオペラ 日立のオペラ

中川 幸雄

購読しているロンドン発行の「Opera」誌。私はまず巻頭の編集長コラムを読みます。その「Opera」誌の6月号は「第2回 World Opera Forum」が6月3日から5日まで Los Angeles で開催されることを紹介しています。World Opera Forum は前回 2018 年に Madrid で開催されて以来のことですが「Pandemic を含むその6年間に世界の情勢(Pandemic, Climate, Immigration, Refugee, Wars and Right wing populism など)は大きく変わり、もちろんオペラ界にも大きな影響が出ており関係者は今回の World Opera Forum の結果に--それが如何なるものであるか--注目すべきであろうというものでした。そして成功している「オペラ」はそれぞれの「community」にうまく根ざしており、結局は個々のオペラがより広い聴衆(wider public)に価値を与えることを必要としているとしています。

一方 Opera America の年間報告によると 2023 年のオペラ会社のチケット売り上げは Pandemic 前の 20%減という現実も突き付けています。

(昨年は一時的にパイロイトの切符が売れ残っているという我を疑うようなニュースもありましたね。)

一方、もうひとつのフォーラム。2023 年 10 月 22 日に埼玉で開催された「第9回全国オペラミニフォーラム」。私はオンラインで参加しましたが冒頭の画面はロシア侵攻により、多数の犠牲者を出し破壊されたウクライナオデッサのオペラハウスでした。

このフォーラムではオペラについての解説や評論で有名なつくば大学の江藤光紀先生が「オペラについての劇場圏」という考え方について講演されました。簡単に言えば「オペラ」の存在は オペラハウスを核として、地域、行政、芸術市場(プロ)、文化的公共圏などさまざまなコミュニティとの連携により成り立つものだというようなことでした。そして「ここに泉あり」で有名な群馬交響楽団を基盤とする高崎市民オペラの歴史の解説がなされました。私は「劇場圏」という言葉は初めて聞きましたが、その内容はある意味では当然のことですがそのひとつ一つについて改めて考えると確かに思い当たることがいろいろあるなど。

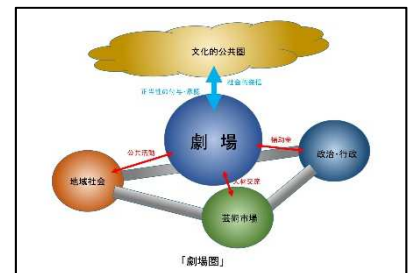
このフォーラムを取りまとめていらっしゃるのは全国でも有名な埼玉「彩」の和田タカ子先生。私は今回、和田先生と講演をされた江藤先生と何度かメール交換をさせていただきましたが、和田先生からは「今でも日立市にはたいへんお世話になっております」と。江藤先生からは「日立市のオペラについては以前から関心を持っていて、いつか取材に伺わせていただきたい」とのお言葉をいただいていたのでした。

日立オペラ 30 年の実績を改めて素晴らしいと感じました。しかし一方、我々も出演した昨年 11 月 4 日の「リレーコンサート」、そして続いての「ニューイヤーコンサート」のお客様の入りは寂しかったですね。

貴重な体験として、次の公演にはしっかり対策を打ったうえで臨みたいですね。相山さんはもういません。



「Opera」誌 2024 年 6 月号
(ロンドン+ニューヨーク)



「劇場圏」のイメージ
(江藤光紀先生)



和田タカ子先生の「埼玉 彩」
(2 回公演 S 席 11,000 円)

翔歌碧空

6 月、水無月(みなづき)。June (英)、Giugno (伊)。日本における June bride(6 月の花嫁)は、雨が多くジメジメした 6 月に結婚する人が少ない事に困ったブライダル業界が 1970 年代頃から始めた物で、ローマ神話に起源する「6 月に結婚式を挙げる花嫁(June bride)は幸せになれる」との言われとは無関係▼しかし、物語や、ことわざ、言われ、詩歌などに起源があっても、自分の都合の良いように解釈したり、借用したりして新しく物語などを紡いでゆく手法は古来からあるもので、その成功例も多々ある▼ミュージカル《West Side Story》が Shakespeare の「ロミオとジュリエット」を下敷きにしていることは周知のことであるが、時代背景は勿論のこと、筋書き、登場人物の生き死に等、異なる所は随所にある。しかし、基本に流れるのは「決して結ばれることのない恋人たちを描く『禁断の愛』」▼メロディ、ハーモニーは勿論、歌詞の言うところを理解して歌ってみたい。(Hm)